

# 厚岸町海事記念館



## 通信

2008.2.

No.7

### 海事記念館特別展「カレイ展」を開催します!!

海事記念館では、2月9日(土)から3月23(日)の間、平成19年度特別展「カレイ展」を開催します。私たちの食卓を彩る魚たちはたくさんありますが、その中でもカレイは厚岸町にとっても大変馴染み深いものです。それは地名からもうかがえます。現在の港町の厚岸大橋たもと付近を以前はタンタカコトイ(アイヌ語でヒラメやカレイ類の跡の意味)と呼んでいました。地名になるほど、多くのカレイがいる場所だったのかもしれませんがね。

特別展では、主にカレイの標本や実際に使われる漁網などを展示し、カレイの種類や漁法、生態について解説する予定です。また、展示期間中、町内にある独立行政法人水産総合研究センター北海道区水産研究所厚岸栽培技術開発センターの協力により、同センターが世界で初めて種苗生産に成功し、現在、栽培漁業に取り組んでいるマツカワの稚魚を水槽で展示します。この機会にぜひカレイにまつわる歴史や生態、栽培漁業について理解を深めてもらえればと思います。

開催期間：平成20年2月9日(土)～3月23日(日)  
会場：厚岸町海事記念館  
開館時間：午前9時00分～午後5時00分  
休館日：毎週月曜日、祝祭日の翌日  
入館料：大人210円(高校生以下無料)

### 冬の工作教室でアイスクャンدلとペーパークラフトを作ったよ～

昨年12月23・24日と今年1月10・11日、海事記念館において工作教室を開催しました。工作教室は二日連続で行われ、一日目は牛乳パックを利用したアイスクャンدلづくりやペーパークラフトづくり(紙飛行機やクリスマスカード、動物など)を行いました。二日目には前日から凍らせておいたアイスクャンدلを完成させました。参加してくれた児童の中には、紙飛行機の出来が納得い



完成したアイスクャンدل

なかったのか、工作教室が終わってから何度も海事記念館に通ってくれた児童もいて、少しは海事記念館が身近なものになってくれたかなと思っています。

### 郷土館・太田屯田開拓記念館 休館のお知らせ

現在、郷土館・太田屯田開拓記念館は、冬期間(11月16日から4月15日まで)休館となっています。休館中のお問い合わせなどは、海事記念館までお願いいたします。

## 職業体験で海事記念館の仕事を体験

職業体験学習ということで真龍中学校（10月11、12日）と厚岸中学校（10月17、18日）の2年生、6名が二日間にわたって海事記念館の仕事を体験しました。

初日は、館内外の清掃や窓拭き作業、プラネタリウムの見学などを中心に主に博物館の管理面について学習してもらいました。二日目は、場所を海事記念館収蔵庫（町内太田）に移動し、海事記念館所蔵資料の整理をおこないました。資料の名前や寸法などが記された

名札を収蔵資料に取り付けてもらうという作業でしたが、資料の名称や写真、寸法など、様々な情報をもとにどの資料が名札と対応するのか、いろいろ苦心しながら、一点一点資料に名札を付けてくれました。今回、体験してくれた6名が博物館ってこういう仕事をしているんだと少しでも知ってもらえたのであればうれしいのですが。



収蔵庫での作業風景

## 文化財係 太田屯田兵の授業発表見学記

去る11月29日、厚岸町立太田中学校において1年生3名による「屯田兵のはじまり、生活、歴史」と題した授業発表が行われると聞き、見学させてもらいました。

今回発表した生徒のみなさんは、昨年7月、太田屯田開拓記念館をはじめ、太田屯田兵屋や町内若竹町の鹿島稻荷神社、厚岸町郷土館を見学し、屯田兵の歴史について勉強を続けてきました。見学に同行し解説などでお手伝いしたのですが、太田屯田兵屋を見学した際には、兵屋を管理している松本英男さんが太田に入植した屯田兵の歴史について語ってくれました。生徒達も真剣な面もちで松本さんの話に聞き入っていました。



太田屯田兵について説明する発表者

発表当日は、屯田兵の食事や開墾、戦争への出兵など、これまで調べてきたことを余すことなく発表できたようでした。会場には松本英男さんも駆けつけ、最後に生徒のみなさんに「100年以上も前の先祖、太田屯田兵の苦勞があって、今の太田がある。みなさん、それを忘れないでください。」と語りかけていたのがとても印象的でした。

## 学芸員こぼれ話～「マキド」について～

先日、厚岸観光協会の研修会が行われ、そこでお話しする機会がありました。その時に思っていたことをこの場を借りて少しお話ししたいと思います。

当日は、明治、大正時代に刊行された写真帳などをもとに当時の厚岸の街並みや風景についてお話ししたのですが、その際、写真に写っているマキドについても触れました。マキドは全国的な名称としてはカグラサンやロクロと呼ばれ、巻胴などと呼ばれる主軸を人力によって回転させ、船など重量のあるものを浜に巻き揚げる道具です。この道具について、「厚岸ではマキドと呼ばれていたようですね」と問いかけたところ、会場から



町内港町にあったマキド  
(平成元年頃、山田廣一氏撮影)

からは「マギドって言ったなあ」、「いやいやロクロだ」などと声が挙がり、特に厚岸町内の床潭や小島などではマギドと呼ぶことが多かったということでした。おそらく、主軸の部分の巻胴(まきどう)から転訛してマキド、マギドになったと思われます。また、この巻き揚げ具は人力で巻き揚げるのが一般的ですが、床潭では馬を使った畜力による巻き揚げもおこなわれた時期があったそうです。現在ではそのほとんどが機械のウィンチに切り替わっています。

このように主軸を人力で回転させ巻き揚げる道具は近世期の史料などにも散見されます。例えば、肥前唐津領内(現佐賀県)の海陸の産物を絵巻風に記した『肥前国産物図考』(1773年～1784年成立)にも描かれ、浜に揚げられた鯨の皮をはがすために巻き揚げ具が使われています(『玄界のくじら捕りー西海捕鯨の歴史と民俗ー』佐賀県立博物館、1980年)。もちろん、構造上の細かい違いはありますが、厚岸においてマキド、マギドなどと呼ばれている巻き揚げ具が日本列島の広い範囲で使用されてきたことがわかります。

ところで、呼び名についてですが、先ほど述べたように厚岸でも使われているマキド、マギドという名称は他の土地でもみることができます。1938年に民俗学者柳田国男らによって刊行された『分類漁村語彙』(全国の漁村などで使われている(いた)語をまとめたもの)によると、青森県下北半島の付け根に位置し、陸奥湾に望む野辺地周辺ではこの巻き揚げ具を「マキド」または「ボンズ」と呼んでいました。このことはあくまで名称だけを取り上げた場合ですが、厚岸と青森、遠く離れた場所との一致が認められます。今後、巻き揚げ具の名称について調べていけばこの名称を使っていた土地が他にも確認できるかもしれません。また、人や物の移動などについても注意する必要があるかもしれません。というのも、明治8年の厚岸港輸入物品表の品物の中に「地ロクロ」があり、この巻き揚げ具のことだとすれば他の地域から持ち込まれてきたことも考えられます。明治42年の「厚岸港輸出入表」において主な輸入先として新潟県や富山、秋田、函館、そして青森が挙げられており、本州の青森県と厚岸は物の動きでつながっていたこともうかがえます(明治8年、明治42年の資料とも『厚岸町史』下巻(厚岸町、昭和50年)より)。

このように、「マキド」「マギド」「ロクロ」「カグラサン」というように様々な名称を持つ巻き揚げ具をとおして人と物の動きがもう少し分かってくれば面白いのではないかと考えています。(車塚 洋)

(末筆ではありますが、厚岸観光協会のみなさんには、会場にて多くのご助言いただきましたことを記して感謝申し上げます。)

去年は、町内港町のアッケシソウ栽培地を四面に増やし、種まきから雑草取り、海水散布とアッケシソウと向き合ってきました。その結果、なんとか秋には赤く色づいてくれひとまず安心したのですが、前号でもお知らせしたとおり、残念ながら四面の内一面（平成17年暮れに造成し、翌年の秋には見事に赤く色づいた場所です）は成長が思わしくありませんでした。来年こそは、なんとか四面、全てが順調に育ってくれることを願うばかりです。



港町のアッケシソウを観察する高知小学校のみなさん

ところで、去年の10月30日に港町のアッケシソウ栽培地を厚岸町立高知小学校のみなさんが見学しました。見学に先立ち、海事記念館のアッケシソウコーナーでアッケシソウとはどういう植物なのかを学習しました。その後、みんなで港町のアッケシソウ栽培地に移動し、アッケシソウの茎や種などを観察してもらいました。

## （お知らせ） プラネタリウム「冬の星座めぐり」を投影中 !!

海事記念館プラネタリウム室では現在「冬の星座めぐり」を投影中です。オリオン座や双子座といった冬の代表的な星座についての解説や星座にまつわる神話のアニメーション「牡牛座物語」を上映しています。ぜひ、この機会に冬の星座の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。

投影時間：平日 15:30～

土・日・祝日 11:00～、13:30～、15:30～

観覧料：海事記念館入館料のみ（大人210円、高校生以下無料）

### 編集後記

今回、「学芸員こぼれ話」というコーナーを作ってみました。実は、何度か町民の方に「学芸員ってどういう仕事をしているの？」と聞かれたことがあります。確かに、学芸員の仕事はわかりにくいと思います。そこで、学芸員の仕事を理解してもらうためにも、自分自身、常日頃、興味を持っている事柄などについても書いてみようと思い立ったわけです。毎号とはいかないと思いますが、長い目で見てください。よろしくお願いします。ところで、本号を書き上げてから、今回紹介した巻き揚げ具のことを道内の余市町ではカグラサンと呼び、小平町ではロク

ロ、ポーズ、カグラサンということがわかりました。このように各地で使われている名称についても、いつかお話できればと思っています。（車塚）